

1 生徒の実態（実態把握・調査結果の分析）

（1）生徒の実態

- 1年生：人数が3名と少なくまじめに取り組んでいるが、体力・体格に差がある。
- 2年生：話をよく聞きまじめに取り組んでいるように見えるが、3つ以上の指示を出すと混乱してしまう時がある。
- 3年生：話をよく聞きまじめに取り組んでいる。リーダーシップを取れる生徒が増え、仲間で協力してゲーム展開、準備・片付けなどができるようになってきた。

（2）調査結果の分析

- 1年生：運動能力に多少の開きがある。
- 2年生：体育会系の部活をしている者とそうでない者との体力の開きがある。
- 3年生：真面目に取り組む生徒が多い。

全体を通して持久力が劣っている。また、体の硬い生徒も多い。

2 指導上の課題

- 1年生：運動の苦手な生徒への言葉がけや少人数での指導の工夫を心がける。
- 2年生：指示の出し方を工夫し、浸透するようにする。学習のねらいを明確にする。
- 3年生：運動が苦手な生徒もいるが、全体的には動けるのでさらに伸ばせるように工夫するとともに、苦手な生徒への指導の工夫を忘れない。学習のねらいを明確にする。

3 授業改善の視点とその方策

- ・少人数を生かした指導計画を検討する。
- ・グループ単位での学習を通して互いの良い点・直すべき点を考え、自信と意欲を持たせる。
- ・用具の準備・片付け、集団種目を通して協力する大切さを徹底させる。
- ・特に苦手意識の強い生徒に対して、自己の力に応じた目標設定の指導と助言をさらに強化していく。
- ・種目ごとの評価の観点を明確に示す。

4 その他

- ・健康・安全について関心を持たせ、自己管理ができるよう支援していく。
- ・教師主導型から生徒主体型へと授業を展開するために、自らが考え実践することを徹底させる。
- ・運動の楽しさを味わわせると共に、自信・達成感を持たせるような内容・助言を工夫する。
- ・生涯にわたって心身の健康を維持・増進するような教材を工夫する。